OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	これからの授業における三種の神器としての3C
Author(s)	山岡, 華菜子
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2008, 9, p. 48-49
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70270
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

これからの授業における三種の神器としての３Ｃ

山岡　華菜子（言語文化研究科　言語文化専攻）

はじめに

中学校の時の英語の教科書で、パソコンを全面的に用いた授業が、これからの教育現場では普通になるとか、増えてくるとかいった内容のテキストを読んだ記憶がある。しかし、それからの約 10 年にわたる学校生活の中で、PCを用いた英語の授業には、出会った覚えがなかった。そのため、TA として参加させてもらったGerry先生の授業は、私が思い描いていた「未来の授業」であった。それは、非常に効果的な授業構造で、緊張感の漂う授業だった。

Calabo 、Call教室（マルチメディアセミナー室）

これから、その授業の注目すべき点をいくつか述べる。まず、このクラスは、金曜日の２限目の学部１年生のListeningのクラスで、学生は30名弱だった。授業内の活動で一番最初に行うことは、出欠確認である。これは、Calaboの機能を用いて行うので、20 秒もかからないで終了する。次に Gerry 先生が話す英語（教科書の内容に沿ってのものか、その内容を少しずつ変えたもの）を学生は聞き取り、ディクテーションを行う。１人ずつ学生を当てて行って答えさせるのだが、答えている学生の隣に座っている学生が書いているディクテーションは、全ての学生のパソコンの横にある、センターディスプレイと呼ばれている別のパソコン（2 人の学生のパソコンの間に１つ設置されている）に映し出されているので、他の全員が見ることができ、参考にできる。それが可能になるのは、ディクテーションをしている人が変わるごとに、TA が Calabo のモニタ機能を用いて、ディクテーションをする人に合わせて、センターディスプレイに映し出されるワードの画面を変える作業を行うからだ。あとは、2 週ごとに授業の終わりに小テスト(Quiz) を行った。このテストの時は、パソコンは使わなかった。なぜなら、「キーボードを打つ音がうるさいかもしれないから」だというGerry先生の考えからである。確かにこのテストは、Listeningのテストであるため、キーボードをたたく音は聞き取りの妨げになりかねないし、あるいはキーボードを速く打てるか否かがテスト結果を左右しかねない、という問題も考えられるだろう。また、テストの答えの確認をする時などに、先生がテストの時に言った文を先生用パソコンで文字に起こして、センターディスプレイに映し出していた事もあった。従って、ホワイトボード（黒板）使う必要はなく、しかも先生の文字を打つスピードはとても速い（１秒間に２字！）ので、とても効率的だと思った。

CMC のクラス

幸運にも、私はサイバーメディアセンター（以下、CMC と略）で行わない Gerry 先生の別のクラス、木曜日の１限目の実践英語の授業（以下、木１のクラスと略）にも、TA として参加させてもらっていた。そのクラスは、パソコンは教室内になく、教科書と筆記用具で授業を受ける。また、伸ばす技能は 4 技能が目標で、学生は書く・読む・聞く技能だけを鍛えるのではなく、プレゼンテーション等を通して、話すことも練習する。学年は同じ１年生だが、人数はずっとこちらのほうが多かった。そして、私は CMC でのクラスとこの木１のクラスに、１つの大きな違いを見つけた。それは、CMC のクラスの学生には全体的に学習に対する“自律心”が感じられたが、木１のクラスの学生からは、学習に対する“自律心”は CMC のクラス程は伝わってこなかった、という点である。例えば、緊張感がある雰囲気や顔つきであったり、私語をする者が最初から最後まで一人もいなかったところなどが挙げられる。このことに関して、Gerry 先生は、「CMC のクラスの学生は、Listening の技能のみを伸ばすクラスで、あの授業を自ら選んでいるが、木曜日のクラスは必修であることと、やはりパソコンがあるということも原因のひとつと思う」と分析しておられた。この「自分で選んだ」というのも大きな理由だが、「パソコンの存在」も同じくらい学習態度に影響を与えて

いるといえる。パソコンと対面することで、自分と対面しているような心理状態を生み出している可能性も考えられるし、将来的にも仕事などでパソコンを使うことへの練習にもなっているとも言える。つまり、パソコンを使うことは、学習者を色んな意味で自律させてもいるのである。

まとめ

戦後から数年経った日本で、豊かさの象徴として持っていれば便利で、人々が憧れの対象として欲しがった３つの品物を、三種の神器、もしくはその頭文字を取って、３C と呼んだ。それは、カラーテレビ(Colour TV)、クーラー(Cooler)、車(Car)である。これらは昭和の３C だが、これまで述べてきたように、現代のまたはこれからの教育現場における三種の神器は、CMC、Call 教室（マルチメディアセミナー室)、Calabo の 3C といえるかもしれないと思った。いつかこれらの場所や機能が広く教育に浸透し、過去の３C のように、なくてはならないものになる日はそう遠くないかもしれない。それほど私がこの授業で学んだことは、有意義なものであった。